

研究専攻（専門領域）		文化構造研究専攻（社会学）		学籍番号	04CS039
氏名	康海瑛	ローマ字	KANG Hei Yong	国籍	中国
修士学位 論文名	越境とアイデンティティ —日本に留学してきた中国朝鮮族の若者たち—				
提出年月日	2007年8月20日		指導教員	福岡安則	
体裁（論文）	131頁（1頁文字数1,440字）		言語	日本語	
別冊添付資料等					
キーワード	中国朝鮮族，アイデンティティ，言語				

19世紀の後半から20世紀の初期までの時を経て、朝鮮半島からやってきた人々は、中華人民共和国の成立とともに、中国56民族の一員として誕生した。そして、国家の優れた民族政策のおかげで、自分たちの学校、出版社やテレビ放送局などを持っている。こういう点では、他国に渡ったいかなる国のいかなる移民よりも自分たちの固有の文化を守るための、きわめて恵まれた環境に住んでいるとも言える。また、中国の大躍進時代、文化大革命の時期を乗り越え、さらに政治的、社会的に漢族と葛藤する体験も積みながら、朝鮮半島の朝鮮民族ではなく、中国の朝鮮族としてのアイデンティティを築いてきた。

中国にいるときは少数民族であることをずっと意識してきたわたしだが、日本にきて自己紹介をするときは「中国からきた留学生だ」と答えた。また、「あなたは韓国語を喋ってるし、韓国と同じ民族だから韓国人だよ」と韓国人に言われたときは、そうではないと強い反発をした。そのようないつも矛盾している思いをすっきりするとともに、他の中国朝鮮族の若者たちもわたしと同じ体験をしてないのか、知りたいと思い、この研究を始めることにした。

中国の改革開放政策を機会に、中国朝鮮族は世界各地に幅広く進出している。そのなかでも韓国と日本への進出は圧倒的な数を示している。韓国に次いで、数千人規模では収まらない状態であると言われる海外渡航先は、日本である。日本にやってきた中国朝鮮族の姿は、中国もしくは韓国にいる朝鮮族とは違う一面を持っていると考えられる。朝鮮族特有のアイデンティティを持っていた中国朝鮮族の若者たちは、日本でさまざまな出会いと出来事を経験する。また、日本に留学して来ている朝鮮族の若者たちは、中国語、日本語、朝鮮語、3つの言語を自由自在に話せる人がたくさんいる。彼女／彼らは、いままで暮らしていた故郷を離れた異国で、どのように適応しているのか、どのような民族意識を持っているのかについて聞き取りをおこなった。

中国朝鮮族の留学生たちは、違う生活環境と経験を持っているとともに、日本での生活を経て、違う思惑も持っていると思っている。したがって、みんながわたしと同じ経緯を持っているとは思わないが、いままでの日本での生活をとおして、共通点と違う点がみられると思った。